

令和6年度
すくわくプログラム活動報告書
(実施対象：2歳児クラス)

モニカ茗荷谷駅前園



テーマ

砂との出会い

設定理由

公園に行くと砂場で団子を作ったり玩具を使い見立て遊びをする姿や、その中で公園ごとの砂の違いに気づく姿がみられたから。
砂遊びをする際に、玩具がないと興味を示さず遊びが発展しない様子が見られ、手で砂に触れ遊ぶ経験を増やしたいと思ったから。

対象クラス

2歳児クラス・11名

活動の狙い

砂に触れ違いに気づき、新しい遊びを発見する

キーワード

「触ってみてどんな感じ？」
「どんな色？どんなの作る？」
「水と混ぜたらどんな感じ？何か変わった？」

活動期間

令和6年12月～令和7年1月

活動回数

計5回

活動①

令和6年
12月18日の活動

環境構成

『教育の森公園』の砂場に行き手で砂に触れる。

「触ってみる？」と声を掛け、一緒に触り感触を楽しむ。

砂の形が変わることに気づく。

砂場の砂と地面の砂を並べ違いに気づき、保育者に伝える。

振り返り

遊ぶ前に玩具を持ってきていないことを伝えたが特に動揺することなく遊びはじめていた。あたたかい？つめたい？と問いかけるとそれぞれ答え、砂に手を入れて感触を確かめていた。

足で砂を踏んだ時の足跡の模様や砂の色の違いに気付く子やだんご、ケーキなどに見立てて遊ぶ子がいた。

子どもたちの気づきが多かった。探究できるよう保育者からの声かけを今回よりも減らして関わっていく。次回は周りに落ちている葉や枝はできるだけ取り除き、砂に遊び込めるようにしていく。

どんな感じがする？

R6 12月18日 めろん組

手を使って穴を掘ったり、山を作ったり…

線を描いてみたり



模様ができた！

イスにしよう



穴をあける

さらさらでおだんご作れない…

木の枝で掘ってみる



初めておもちゃを持たず砂場へ行ってみました！

戸惑うことなく手で砂に触れて思いきり遊んでいた子どもたち。じっくり遊ぶ中で足跡、温度、感触の違いに気が付き友だちや保育者に知らせていました。なかなか砂を握っても固まらず難しい…とつぶやく子もいましたが、どうして固まらないのかを考える様子も。

今後も不思議に思う気持ちを大切に、一つの遊びを深められるよう関わっていきます！

活動②

令和6年 12月23日の活動

環境構成

『窪町東公園』の砂場に行き手で砂に触れる。

「どんな感じ？」など、感じたことを話すことが予想される。

『教育の森』との砂の違いに気づく。保育者と一緒にトンネルや団子を作ろうとする。

振り返り

穴を掘ったり足跡をつけてみたりと前回からの継続的な遊びがみられた。

今回の声掛けは必要以上の声掛けを行なわないように意識したことで、子どもたち自身での遊びが広がり子どもたち同士の会話や砂遊びを通しての関わりが増えたように感じた。

触ってみて？

R6 12月23日 めろん組

この砂だと
お団子作れない



みて
ネコみたい



砂の違いに気づいたり指の跡を動物の手に見立てたりしています。

お尻あったかいよ



みんなで座ろう！



お友だちが座っているのを見て、どんどん子どもたちが集まってきました！



前に遊びに行った砂場とは違う公園の砂場に遊びに行きました！

前回の砂場遊びを思い出しながら泥団子作りにはどんな砂が良かったのか友だちや保育者に伝えたり、友だちと自分の足跡の形の違いなどに気づいたりしながら遊び込む子どもたち。子どもたちの中で継続的な遊びがどんどん発展していく姿を見て、子どもたちの気づき・発見・不思議を受けとめ一緒に深めていきたいです。

活動③

令和7年 1月8日の活動

環境構成

『教育の森公園』の砂場に行き水を流してみたり、山を作ってみたりして様子の変化を見て触れる。水を流すことの方に気が向くようになったら、山づくりをして穴を掘ったりして砂遊びを十分にする。水で流した砂が硬くなり泥団子を作り、形になる様子を自分でも感じていく。水を含んだ砂と含まない砂をペットボトルへ入れ比べてみる。

振り返り

雨上がりの砂場だったので、子どもたちも以前との砂の違いに気づいていた。また、イメージしたものが作りやすいようだった。トンネルでは、子どもたちが穴を掘ろうと協力する姿も見られ、集中して遊んでいた。

▼ドキュメンテーション

砂でなにつくる？

R7 1月8日 めろん組



砂が冷たいよ

おだんごできるかな？



トンネル作りに挑戦！



完成した後は、葉っぱの電車をくぐらせて遊びました。

見て！つながった！
握手できるよ



この日は雨上がりだったので、程よく砂が湿っていて子どもたちも「砂が黒い！」「おだんごできるかもしれない」と目を輝かせていました。おだんごを作って並べ、ごっこ遊びをしたり、保育者が山を作ると「トンネル作りたい！」「ぼくも手伝うよ」とトンネル作りを始め、完成すると中で握手をしたり、のぞき込んだり、葉っぱを電車に見立てて遊ぶ姿が見られました。今後も子どもたちの遊びが広がっていくように、見守っていきながら、一緒に楽しんでいきたいです。

活動④

令和7年
1月28日の活動

環境構成

『窪町東公園』の砂場に行く。
トンネルを作る。
団子づくりや子どもたちから想像される遊びを十分に行なう。
手を使いながらイメージを共有して遊ぶ。
水を含んだ砂と含まない砂をペットボトルへ入れ比べてみる。

振り返り

砂に親近感を持って触れていた。水を砂に入れる際はみんなで作った大きな魚から水をイメージするのではないかと思っていたが、魚は海にいるものとして認識していたようだった。子どもたちの発想として受け止めていく。砂に水を入れると興味をもって集まるかと思ったが、あまり盛り上がることなく色の変化に気づいたり、感触をそれぞれじっくり確かめたりしていた。また、泥になるのではないかと思っていたが、固まっていた。他の砂場でも水を入れて遊んでみる。みんなで作った大きな魚は最後にみんなで崩してから遊びを終えていた。

色が変わった！

R6 1月30日(木)

ハンマーヘッドシャークやクジラはどこに暮らしているのかな？

めろん組



おさかなほうみにいる



ぼくもて(手)、ぬらしたい！

こんいろ



てについた！

砂を山のようにしてたくさん集めると、顔に特徴のある「ハンマーヘッドシャーク！」と名前を付けて砂の形を海に見立て創造を影らませています。保育者が砂に水を入れた後は、少し固まった砂を取りつぶしてみたり握ったりしてじっくり感触を確かめる姿や、保育者が作った泥団子に気づき、動くと思ったのか泥団子に向かって息を吹きかけたりする姿も見られました。

活動⑤

令和7年 2月7日の活動

環境構成

『教育の森公園』に行く。
地面がぬかるんでいる場所を見つけ、触れたりして探究を楽しむ。
保育者も一緒に遊び、子どもたちの気づきや発見に共感し、遊びが広がるような関わりをする。

振り返り

公園に着いた時から、子どもたちがぬかるんでいる地面を見て「なんか水がある」「太陽があるからだよ」などと話していて、保育者はその姿を見守っていた。自然に手で触れてみようとする子が出てきて、次第に足で踏んだ所の色が違うことにも気づき、踏んだ感触も楽しくなっていったようだった。保育者が何も声をかけなくても、子どもたち自らいつもの地面との変化を感じ、遊びが広がっていったので、子どもたちからの気づきや発見の声がいつも以上に多かった。また、いつもの砂とは違うので触れずに様子を伺う子もいたが、友だちの姿を見て枝でつついてみたり、その子なりに探究しようとする姿が見られた。

▼ドキュメンテーション

なんだろう！この感触！

R6 2月7日(金) めろん組



いつもの公園の地面との違いに気が付いた子どもたち。どうしていつもと違うのかな？と不思議でした。



きもちいい！ふわふわする



クッションみたい

自分たちが踏んだ所を見ると…



ぐちょぐちょだ

色が違うよ！

靴にいっぱい(泥が)ついてる

公園に着いた時から、子どもたちがぬかるんでいる地面を見て「なんか水がある」「太陽があるからだよ」などと話をしていました。初めはなんとなく歩いてみたりしていた子どもたちですが、自然に手で触れてみようとする子が出てくると、次第に足で踏んだ所の色が違うことにも気づき、踏んだ感触も楽しくなっていったようでした。保育者が気付くのではなく、子ども達自ら地面の変化に気づき、自分たちで確かめながら感触を感じていました。

使用物

ペットボトル | 水を運ぶための透明カップ | プロジェクター | スクリーン

テーマ：砂との出会い

全体の振り返り

令和7年1月30（木）・2月5日（水）2回に分けてプロジェクターを使い職員に共有。質疑応答では初回から最後までの子どもたちの変化や声掛けについて質問があった。砂以外のものをできるだけ取り除き、声掛けも最小限にし保育者が一緒に遊ぶ中で少しずつ手で遊ぶことに慣れ遊びも発展していたと返答した。砂場玩具なしでも環境に配慮することで十分遊び込めると感じたなど感想もあり有意義な時間になった。

終



株式会社モニカ

〒105-0004
東京都港区新橋2-12-16 明和ビル7階
TEL:03-6661-2466
FAX:03-6661-2467

モニカ茗荷谷駅前園

〒112-0002
東京都文京区小石川5-3-2 エイト印刷ビル2階
TEL:03-5615-8798
FAX:03-5615-8799